

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：平成31年3月28日

事業所名 放課後等デイサービスプーさん

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1		個別の部屋やパーティション、運動スペースを十分確保している。	子供たちの居心地の良い場所や障害特性にあった環境作りを行っている。
	2 職員の配置数は適切である	4	1		人員配置基準を満たしている。	保育士、作業療法士、小学校教諭免許等の資格者を有し、幅広い視点に立ち療育を行う。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	2	2	階段の手摺・滑り止めや玄関段差は必要時スロープを置くことで合理的配慮を行う。	身体・視覚障害児の受け入れいれているので、その都度利用しやすいように施設の改善、改築を行う。
業務 改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	2		利用者の個別支援計画に基づき発達支援・生活支援・自立支援・学習支援・余暇支援・運動支援に分けて療育を行っている。	利用者の個別支援計画に基づき発達支援・生活支援・自立支援・学習支援・余暇支援・運動支援に分けて療育を行っている。療育前の当日スタッフミーティングで評価や改善を行い、問題ない場合は定期モニタリングを行う。緊急を要する場合は関係機関（保護者・学校・相談支援専門員・行政等）支援会議ができる体制をとっている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			保護者の意向は送迎時や支援会議・相談支援専門員と連携している。独立相談室いつでも保護者の相談できる体制を整えている。	保護者の意向は連携と相談体制を整備するとともに、今後は保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1		事業所掲示板に掲示し保護者に結果を手渡しする。	ホームページ更新作業中のため平成30年度自己評価は掲示していない。自己評価についてホームページ上で掲示していく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2	2	他事業所の職員や福祉関係者の見学等の受入し、指摘や意見を頂き業務改善に繋げている。	佐賀中部地区放課後等デイサービス連絡会で第三者委員会設置に向けた取り組みがあるのでそれに参加予定。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			佐賀中部地区放デイ連絡会や佐賀県療育センターの研修会等に参加している	虐待防止研修、発達障害研修等の参加。事業所内研修の実施。またスタッフから自己啓発の研修、スキルアップの為の研修の参加を認め、研修費用も事業所がもっている
適切 な 支 援 の 提 供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5		1	アセスメントで細かい部分まで課題が見えるようになっている	モニタリング時や子供たちの状況変化時など適切な時期にアセスメントをとっている。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	2		状況を把握する為にきめ細かな、標準化したアセスメントシートを使用している。	適応行動状況把握のためのアセスメントはモニタリング時や計画時、状況の変化があった場合に見直しできるようにしている。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	4		1	毎回スタッフで振り返りを行い活動している	事前の話し合いの中で、各児童の担当者から活動プログラムと実施方法等について提案があり検討し実施している
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		1	利用者のレベルが向上するようにプログラムを工夫している。	活動プログラムを児童の発達状況に応じて行っている。ワークに対する意欲・興味が短時間しか持たない児童には特に配慮している。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1	1	事前に家族の意見を聞き、その課題に取り組めるように努力している。	平日は学習支援（言葉の習得・学校の宿題・勉強の補助）や生活自立支援（排泄・身辺等）を主に行う。長期休暇は社会見学・就労B事業所等の就業体験・外食・買い物訓練・物づくり等経験や体験を積み重ねる活動を
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	2		本人の状況や状態に合わせた無理のない計画を立案している。	児童の状況や障害特性を考慮して、個別と集団活動を適宜組み合わせることがベストと考える。児童の状況に応じたモニタリングを行い放課後等デイサービスの計画を作成している。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1		日々の療育スケジュールを確認し、各担当で役割分担をしている。	平日は13時から送迎時間等の確認、利用者の支援状況、役割分担を確認している。

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	1	送迎があり支援終了後の振り返りを行うことが難しいので、翌朝のミーティング時に行	送迎でスタッフがそろわないので必ずその日の支援の振り返りや城を共有できないのでケース記録や連絡帳、昼の支援前会議で共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1		日々の記録は連絡帳やケース記録、日誌に記録している。	日々の記録は個別のケース記録や学校と共有化している連絡長等で記録の徹底している。支援前会議でそれらを活用し支援の検証・改善に努めている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	2		支援会議を開催し、支援者の意見を聞き、モニタリングを実施している。	6ヶ月、1年のモニタリングを確実にこなっている。本人の状況等を記録や会議の中で検討し必要と思われる場合は見直しを行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	2	3		日常生活支援、外出支援、学習支援などを組み合わせ取り組んでいる。	自立支援と日常生活の充実のための活動。創作活動。地域交流の活動。体を使った運動等を組み合わせ合わせて支援をおこなっている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	1		児童発達支援管理責任者が基本参加し、必要に応じて児童指導員が参加する。	できる限り直接支援している、児童指導員に参加してもらう為に担当者会議を午前中に開催してもらうなど工夫している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6	1		学校情報等、必要な時はホームページなどで確認している。分からない時は、直接連絡をして調整を図っている	佐賀中部地区放課後等デイサービス連絡会の定例会で学校行事、駐車場、その他の情報連絡はとれている。また各市の障がい者福祉福祉課や教育委員会との連携もおこなっている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	2	1	看護師の資格を持ったスタッフがいて、てんかん発作時・緊急時対応と安心できる。	医療的ケア児については医療面の設備の対応が不十分なために基本的に受け入れ予定はない。スタッフに看護師の資格者や嘱託医の協力、往診体制はできている
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	3	1	保育所等から情報提供してもらえるように関係機関との連絡、調整できるようにしている。	保育所等から情報提供してもらえるように関係機関との連絡、調整できるようにしている。関わりについて、対応等の苦慮した場合電話等ですぐ対応してもらえるようにしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	2		障害者福祉サービス事業所から情報提供依頼がある場合に保護者の了解を得て提供している。	中部福祉ネット加盟して、就労系の事業所と連携を図っている。また生活介護、入所系事業所についても長期休暇時の体験等で顔なじみの関係を作っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3		児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	1	3	長期休暇時児童館を利用している。	長期休暇時の児童館利用や行事等のなかで、交流を図っていく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	2	2	1	年に一度開催連絡があるので都合をつけて参加できるようにしている	佐賀市・小城市・多久市の放課後等デイサービス事業所で設立している、佐賀中部地区放課後等デイサービス連絡会が、関係機関を含めて定期的に
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			家族が希望する目標に向けて療育内容を検討し課題に取り組んでいる。	送迎時や連絡帳。ライン・面談電話相談等で共通理解を図っている。またフェイスブックにて日々の様子を配信している。*個人情報保護・管理は十分注意して行っている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	2	1	ペアレント・トレーニング等に限らず、佐賀県療育センター主催の講習会ポスターを掲示し、スタッフや保護者が参加できるようにしている。	ペアレント・トレーニング等に限らず、佐賀県療育センター主催の講習会ポスターを掲示し、スタッフや保護者が参加できるようにしている。また研修会等で知り得た情報についてプーさん便り等を通してお知らせしている。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		1	契約時や連絡帳、送迎時の話、面談等で説明している。	運営規程、支援の内容、利用者負担等は、送迎時、プーさんたより、フェイスブック、個人面談などできるだけ説明できる機会を増やすように
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		1	いつでも相談が聞ける体制を整え適切な助言をしている。	送迎時に本人の様子を伝えたり、連絡帳のやり取りの中で悩み等を聞く機会をつくり、問題によっては面談や相談支援専門員、関係機関と担当者会議の開催、紹介をおこなっている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2		3	保護者会について、保護者の中で立場や考えの違いなどにより保護者会として活動していないが、保護者と情報交換としての茶話会や個別面談の充実を図る。	保護者会について、保護者の中で立場や考えの違いなどにより保護者会として活動していないが、保護者と情報交換としての茶話会や個別面談の充実を図る。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			内容は記録し、苦情相談責任者へ報告し、迅速な解決に向けて取り組んでいる。	苦情にたいする窓口や担当者を決めて対応している。また契約時にも周知している。また事業所内の掲示板に担当者や相談時間等を掲示している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			フェイスブックで発信をしている。長期休みの行事計画は事前に保護者へ配布している	プーさん便りを毎月発行している。長期休暇時の行事は予定表を配布している。また日々の活動様子や行事もフェイスブックで配信している。フェイスブックについて顔出し等の個人情報取り扱いについて確認をとっておこなっている。
	35	個人情報に十分注意している	5			個人情報の取り扱いをスタッフ間で共有し、個人情報に関しては鍵のかかる場所で保管している。	スタッフにたいして個人情報に関する誓約書を取り退職後も情報を流さないことを誓約している。取り扱いについても個人情報に関する物はシュレッダー処理している
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			PECSなどカードを用いて配慮を行っている。保護者等の連絡はラインを利用している	PECSなどのカードや説明時に文字を大きくしたり、その物の写真、イラストなど本人の理解度や特性に応じて情報を伝達している。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	1		夏祭りや餅つきなど行事を地域の方にお知らせしている。近くの保育園とはポニー乗馬体験、電動車椅子体験、利用	夏祭りや餅つきなど季節行事の参加呼びかけている。また保育園やお寺行事に際は駐車場を提供している。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	1		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定している。	職員が閲覧できるようにしている。事業所内研修を実施する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	1	1	年2回の避難訓練を実施	年2回の避難訓練を実施と防災研修の参加を行っていく。施設内にも避難経路図や防災標語を掲示し、防災に対する啓蒙活動もおこなっている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		1	虐待防止の研修会に参加したり、事業所内での研修にもあげたりしている	虐待防止委員会を設置し、年2回スタッフに対する虐待アンケートを実施し、虐待予防に努める。また日々の中で同じ服を何度も着てきたり、不衛生、食事を取っていないなど虐待のサインを見逃さない様にし
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	1	1	現在、身体拘束をともなう支援はおこなっていない。	身体拘束については虐待防止委員会の中で対応している。支援会議を開催し家族同意の文章作成のもと計画するようにしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	3		医師の指示書が必要な児童をまだ受け入れたことがない。	対象児を受け入れた場合、医師の指示書に基づき対応する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			事例集は作成していないが、ヒヤリハット報告書を作成し全職員へ回覧をしている	ヒヤリハットについて会議の中で全員が共有できるようにしている。